



# 園田中だより

さとく・  
うつくしく・  
たくましく

No. 16

尼崎市立園田中学校  
TEL 06-6491-0775  
令和3年1月25日  
(文責 澤嶋 伸)

園田中学校ホームページ : <http://www.ama-net.ed.jp/school/j20/>

## マニュアルの一步先に行く

450年ぐらい前の昔話から始めます。時は戦国、1570年頃の話です。その頃、羽柴秀吉のちの豊臣秀吉が、現在の滋賀県長浜市に長浜城を築城しています。長浜城の城主となった秀吉は、ある日、鷹狩りに出かけました。その途中に観音寺というお寺に立ち寄りました。秀吉は、お寺の佐吉という少年にお茶を所望します。汗だくになった秀吉の姿を見た佐吉少年は、大きな茶碗にぬるめのお茶を並々と注いで秀吉の所に持ってきました。秀吉がもう一杯頼むと、先ほどより少し熱めのお茶を茶碗半分ほど注いで持ってきました。さらに秀吉はもう一杯とお茶を所望します。今度は、少年は小さな茶碗に熱いお茶を注いで秀吉に差し出しました。お茶の出し方にこれほどまで心配りのできる佐吉少年を秀吉は大いに気に入り、城に連れ帰

り、召し抱えたと言います。秀吉39歳、佐吉少年15歳の時のことです。丁度、みんなと同じ年代ですね。この佐吉少年こそが、のちの豊臣政権を支え、関ヶ原の戦いでは西軍の中心人物となった、石田三成です。この話は石田三成の「三献茶」として今に語り継がれています。子どもの頃から相手が何を求めているかを考えて、相手の心に寄り添い、自分の判断で主体的に動く力を持ち合わせていたのです。そこにマニュアルは存在しません。

時代は変わって現代、ディズニーランドで働いていらっしゃるキャストと呼ばれる従業員さんにも接客マニュアルはありません。コーヒーチェーン店のスターバックスにもマニュアルはな



いそうです。マニュアルがあれば人は考えません。どんな状況にもマニュアルの範囲で対応すればいいと思うからです。

さて、学校ではどうでしょう。中学校は義務教育で、約束ごとや規則など、社会で通用する大人へと成長するための基礎を学ぶところです。学校生活や部活動などでの係や役員など必ずやらなければならない仕事が決まっていると思います。これはやってもらわなければ困ります。でも、決まったことをするだけならば、意味がありません。どうすればみんなのため、また学校のためになるのかを自分で考えて、自分で判断して、自分ができること、自分しかできないことをやる姿勢が大切です。

今、時代はマニュアルの一步先に行く人を求めています。指示されたことを完璧にこなすのであれば、人間よりもロボットの方が優れています。しかし、マニュアルに書いていないことをできるのは人間だけです。これこそが人間力です。何をしなければいけないのか、自分の頭で考えて、判断して、行動してください。



## 1.17を忘れない

1月18日(月)に防災訓練を行いました。地震・津波からの避難訓練です。阪神・淡路大震災から26年がたちました。

「1.17を忘れない」ため学校では、犠牲となられた多くの方々のご冥福を祈り、哀悼の意を表すため、半旗を掲げ、黙祷を行いました。



地震避難訓練



津波避難訓練

大きな事故や災害は人の不注意やミスによって起こる事がありますが、自然災害はそういうことには関係なく起こります。大災害が起こってしまったら、まず、自分の命は自分で守る。そのあとは、人と人がつながり、助け合って、大変な時を乗り切っていく事が大切です。自分のできる範囲で防災活動を担うことができるよう、防災について、学習してほしいと思います。

この機会に、ご家族で、地震や津波など自然災害の時に、避難する場所や、集合する場所について話し合っておいてください。お願いします。